

自己評価結果

平安幼稚園

1. 教育・保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約(①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利)を遵守し、人格主義の基本理念(誠実・忍耐・勤勉)と良心を育てる。

2. 教育方針

本園の教育は園児の言語(英語を含む)、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

3. 教育目標

- ①読み書きができる賢い子ども
- ②情緒が豊かで明るい子ども
- ③よく考え、進んで行動する子ども
- ④仲良く遊び、協力し合う子ども
- ⑤身体が丈夫で逞しい子ども

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ①基本的生活習慣の確立

I	評価項目	結果	備考
1	平安幼稚園の教育・保育理念(幼児に対する心の持ち方)に込められた願いを常に念頭に置いて仕事に臨んでいる。	B	
2	教育・保育課程(教育・保育についての根本的な考え方)、教育・保育方針(教育・保育を進めていくための指針)を意識し実践に臨み、園、クラス、個人の保育目標を達成するために、具体的な努力をしている。	B	
3	保育者である前に、社会人としての教養を積むよう常に心がけ、さらに保育士としての専門知識や技術を身につけるよう努め、保育を楽しめるよう心掛けている。	A	
4	園長等の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問や意見を言える。	B	
5	遅刻・欠勤が無く、遅刻があった場合は正確な出勤時間を出勤簿に記入し、欠勤した日の出来事や連絡・注意事項は、自分から尋ねて理解するなど職員間の連携に努めている。	A	
6	園長等と意見が合わないとき、十分に話し合った上で、上司の指示に従い、責任を持って取り組み、必ず結果を報告し、また、会議等で必要と思う質問や意見をはっきり発言することができる。	C	
7	職員として、他の職種の職員達にどんな役割を果たしてほしいか具体的な期待を持ち、保育士以外の職種の人たちが保育に係わるとき、その人達への気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としての役割が何であるか理解している	B	
8	全体の奉仕者としての自覚を持ち、服務規律などのルールを遵守する中において、自らの職責を果たし、自分の担当以外の園内の整理整頓や清掃を進んで行っている。また、本来の業務以外に保育園に係わる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と捉え、責任を持って引き受けている。	B	

9	園内の整理整頓、清掃に心掛けるとともに、室内の換気、室温などにも気を配るようにし、園の備品、消耗品等を大切に使用し、私物と混同しない。	A	
10	小さな事でも、園長や主任等に報告・連絡・相談をし、自分の仕事や職務に必要な情報の提供や共有に努めている。	B	
11	仕事に優先順位をつけ、段取りを決め、締め切りのある仕事や提出物は、期限をきちんと守り、丁寧、正確、迅速に遂行し、当番や役割による仕事(実費徴収費等の現金の管理等)は確実にやっている。	B	
12	自分のクラスの教材や備品を、責任を持って毎日点検・管理し、園の教材・教具、消耗品等に不備があれば、自らすすんで整えることができる。	B	
13	心身共に安定し、健康であるよう常日頃から体調管理に努め、自分の保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識している。	B	
14	朝の清掃をしながら、廊下や階段、保育室など子どもの動線上等に危険物がないかを確認し、危険な遊びがみられた場合は速やかに言葉をかけるなどして注意し、その使い方について子どもと話し合うようにしている。	B	
15	朝の視診時に子どもの体調、機嫌の良し悪し、不審な傷がないかをみて、異常や気になる点がある時は家庭に連絡し、事情を聞くようにしている。また、園内で知り得た様々な事情、個人情報等を正当な理由無く外部に漏らさない。	A	
16	子どもの情報は常に保育士間で話し合い、クラスを越えて共有する。また、行事の前には学年や全体で話し合いを設け、準備の確認等、不備の無いよう共通理解を図る。	B	
17	クラス単位の業務の推進を図るために、自己のクラス課題達成、仕事の執行にとどまらず、他のクラスにも連携を深め、好ましい関係を樹立するよう努めている。	B	
18	園にかかわるすべての人を批判したり、悪口、陰口等は絶対に言わない。	B	
19	他の職員にアドバイス、指導等をするとき、丁寧にわかりやすく、アドバイスを受ける側の気持ちになって行っている。	B	
20	職員会議等で、他の職員から自分の意見や考えと違う結論が出たときも、それに従って気持ちよく協力し、実行できる。	B	
21	保護者、子どもだけではなく、職員間、来客等にも進んで笑顔で元気良く爽やかに、必ず立ち止まって挨拶をし、誰に対しても礼儀正しく接している。	B	
22	園内だけでなく、園外でも地域の人々に積極的に挨拶をしている。	B	
23	保育士等の挨拶を常に子どもが見てまねしていると言うことを自覚し、正しい挨拶を心掛けている。	B	
24	挨拶をしない子どもや保護者がいる場合は、積極的に挨拶をするよう促すようにしている。	B	
25	身だしなみとおしゃれの違いを理解し、頭髪、爪、メイク、アクセサリ等は、保育士らしい保育に差し支えないような物を心掛けている。	B	
26	頭髪や服装を整え、人に好印象を与え、園のイメージを損なわないよう心掛けている。	B	
27	手洗い(手指消毒)、うがい、歯磨きの励行に努め、その大切さについて子どもと話し合うようにしている。	A	
28	毎日保育士にふさわしい、動きやすく清潔な明るい色の服装を心掛けている。	B	
29	子どもの目を優しく見つめながら気持ちを合わせ、子どもの言葉だけではなく、目の動き、顔の表情、体全体の仕草にも注意を払っている。	B	
30	子ども達には、常に優しい言葉がけを心掛けて、必ず「さん、くん」をつけて呼んでいる。	B	

31	保護者に対し、子どものことや自分の保育のことをわかりやすく正しい言葉使いで、丁寧に話すようにし、保護者との信頼関係を築いている。	B	
32	年上、年下、同年齢、同性、異性、先輩、後輩、同期にかかわらず、丁寧な言葉で話している。	B	
33	電話をとるときは必ず自分の名前を言い、丁寧な言葉を使っている。	A	
34	子どもの年齢に応じたわかりやすく聞き取りやすい語りかけを心掛け、少なくとも、1日1回は、クラスのすべての子どもと心の通う会話を心掛け、日々確認をしている。	B	
35	子どもの年齢や発達、個性、特徴に応じたかかわり方をし、乱暴な適切ではない言葉がけをしていないか、考えをまとめて子どもに話しかけているかなど、常に気をつけている。	A	
36	安全で清潔感のある環境作り(保育室、トイレ等)に努め、子どもと一緒に思い切り体を動かして遊ぶことの重要性を理解し、一緒に楽しんで保育を行っている	B	
37	日頃から子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにし、すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している。	A	
38	子どもに文化や生活習慣、考え方が多様であることを知らせ、それらを尊重する心を育てるよう努めている。	B	
39	育児の考え方について、保護者とあなたとが食い違っているとき、先ず相手の気持ちを受け止め話し合い、その保護者の立場や背景、その子の生育歴等を理解するよう努めている。また、子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今、その親子に何が必要かを見極め、それぞれにとって適切な援助をしている。	B	
40	園の様子を伝え、家庭での様子を聞く中で、子どもの育ちを保護者と共に考え、喜び合うことができる。また、その日の子どもの健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じてお迎え時に保護者に丁寧に伝えるように努めている。	B	
41	あなたの保育に批判的な保護者であっても、対立せずに受容し、意見や要求を聞こうとする姿勢を持っている。また、保育に関する保護者の考えや提案を積極的に聞き、保育の流れの中で適切と思うものについては、園長等と話し合った上で受け入れるよう努めている。	B	
42	緊急な連絡、重要な連絡は電話や連絡帳に記入する等して知らせるようにし、保護者からの依頼や伝言等については、メモを取るなどしてきちんと対応している。	B	
43	短期(1～2日)の欠席の場合は、電話で子どもの様子を聞き、長期欠席や入院等の場合は、必要があれば見舞って、園やクラスの様子などを伝えるようにしている。また、連絡帳は保護者がその内容を良く理解でき楽しみにするような書き方をし、保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚に話を聞き、園長、主任に報・連・相する。	B	
44	指導計画を作成するとき、「保育所保育指針」を参考にし、年間指導計画から毎月の指導計画におおし、それに基づき日々の保育を行っている。また、月・週案なども、教育的側面(五領域の視点)や養護的側面(基礎的事項)も盛り込み作成している。	C	
45	子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週・日案などを作成し、子どもの意欲を誘う環境構成が十分工夫されている。また、複数担任の場合は、よく話し合ってお互いの考えを十分に理解した上で、月・週・日案などを立てている。	C	
46	園の保育理念や方針・目標、作成した指導計画のねらいや内容を、保護者にわかるように説明でき、園長はじめ他の職員が把握できる保育日誌などの記録が書けている。	B	
47	季節によって自然の草、花、実、種などを採取し、保育への活用を考えるようにし、季節感や日本、沖縄の伝統的な行事などを指導計画の中に取り入れている。また、探索活動が十分行えるよう、安全によく気を配り環境を整えたうえで、子どもが要求する行動を容認し、好奇心や興味を引き起こす教材や素材、場を用意する心配りをしている。	C	
48	大勢の子どもを保育するときでも、あなたを独占したがるその子の気持ちも十分に満たすなど、子どもの背景に配慮しながら、個別の対応の努力や工夫をしている。また、子どもが緊張したり、不安を感じたときにはあたたかく受け止め、母親のように優しく接するなど、家庭的な雰囲気作りに心掛けている。	B	

49	子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係を作る努力をし、どの子どもも自分が愛されていると実感できるように接している。	A	
50	「食育」の考え方を大切に、食事を「楽しく・おいしく」味わえるように、テーブルの配置や飾り付けなども工夫している。また、食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気ですごせることを第一に考えている。	C	
51	言葉はコミュニケーションや思考・行動のために不可欠なものであることを認識し、幼児期に生きた言葉を豊かに身につけられるように努力している。	B	
52	絵本を読み聞かせるときは、文章の美しさや言葉のリズムの面白さに気を配り、その物語性や、伝統の素晴らしさを伝えている。	A	
53	園の行事について、その意味を十分に理解し子ども達が期待を持って「行事」に参加できるよう、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意している。	B	
54	何事にも率先して行動をし、職務会等でも積極的に発言し、他の職員の模範となるような立ち振る舞いを常に意識して行っている。	C	
55	他のクラスの保育について、疑問や感想・意見を、お互いの向上のために言葉に配慮しながら素直に述べることができる。	C	
56	人が嫌がる仕事や他者の仕事も自ら申し出て取り組むなど、他者への協力や協働を惜しまないことで、組織に人数以上の達成度を持たせている。	C	
57	仕事は優先順位を決め、効率よくこなすために、わからないことは他の職員に教えてもらう等、常に努力をしている。	A	
58	物事を常にプラス思考で捉え、失敗があったときも前向きに切り替えながら自分の職務能力を伸ばすことや経験を積むための取り組みをしている。	B	
59	常にコスト意識を持ち、時間、経費、労力、資材等を有効活用し、効率的な仕事を進め、勤務時間内で仕事を終わらせている。	C	
60	保育の専門知識や技能の他に、趣味や読書、スポーツ等にも関心を持つように努め、講演会、研修会、他園の見学、ボランティア活動(園の活動や姉妹園の行事等も含む)などは、進んで参加するようにしている。	C	
61	積極的にキャリアアップ研修等を受講し、リーダー等として保育士等や園全体の質の向上に向けて取り組んでいる。(取り組んでいきたい)	B	
62	自分の保育に自信を持ち、自分のカラーを出した自分にしかできないクラス運営を行っている。(他年度、他の保育士と比べない)	B	
63	月・週・日案などが、実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたかという視点から、自分の保育を評価・反省している。	B	
64	保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努め、映画、演劇、美術、音楽など本物に触れる機会を持ち、自分の感性を培う用になっている。	B	
65	失敗やミスはそのまま流さずに、必ず次につながるようにしている。	B	
66	自分の保育に対する同僚や上司からの批評や意見を、感情的にならず謙虚に聞き、時には反省することができる。	A	
67	時間内で仕事が終われない場合、その原因を把握し、改善する努力をしている。	B	
68	職員相互の話し合い等を通じて、保育の質の向上のための課題を明確にすると共に、保育園全体の保育の内容に関する意識を深めている。	B	
69	保育計画や保育記録を通して、自らの保育実践を振り返り、次の保育に向けてその専門性、保育の質の向上や保育実践の改善に努めている。	B	

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事がが必要な目標や計画の考察

成 果	理 由
B	①コロナ前のような取り組みに挑戦し保育の充実を図る コロナ感染症が5類に移行し、以前のような保育活動を取り組んだ。しかし、子ども達はコロナ禍の生活が長がったため体力低下や経験不足を感じる場面が保育の中で見られた。そのため、活動の内容を見直し少しずつ取り組み自信を持って活動に取り組めるように配慮した。外遊びや室内で教具を使った活動を増やしたことで、少しずつ体力がついてきた。 ②保育活動の様子をお知らせ配信する 園での様子を少しずつインスタグラム等でお知らせすることが出来てきたが、今後さらに行事だけではなく普段の様子をこまめにお知らせするよう努めていく。

7. 総合的な評価結果

- ・コロナ禍で保育活動の制限がなくなり、コロナ前のような活動を全体で行うことが出来るようになった。年長児や年中児でも初めての取り組みもあり丁寧に保育を行った。行事の練習や内容についても、子ども達のペースに合わせて取り組んだことで、協調性や社会性が身についてきた。
- ・行事等では人数制限が少なくなり、沢山の保護者の皆さんに子ども達の頑張っている姿を見ていただくことができたことで、子ども達の自信につながった。
- ・体力と免疫低下がみられ感染症や体調を崩した際には回復まで時間がかかり長期間休む園児がコロナ前よりも増えていた。そのため手洗いや手指消毒等の感染症予防についても引き続き行い、体力がつくように運動遊びを取り入れた。
- ・集団遊びや異年齢での関わりが増えたことで、道徳性や協同性が身につく友達や周りの人の気持ちを理解し、思いやりをもって接するようになった。

8. 今後の取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
評価と振り返りを通じて改善点や課題を明確にし、その内容を指導計画に活かしながら、個々のニーズや発達段階に合わせた保育を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを通じて子ども達の成果を観察しながら、教育的側面や養護的側面を盛り込んだ指導計画や週案をもとに保育に努めていく。 ・園児が主体となった活動の充実 園児一人ひとりの興味を引き出し、やりたいことを十分に組みこめるような環境設定を行う。 ・園の環境を活かしながら、情操教育の一つとして身近な動植物に触れ合うことで、季節の移り変わりや、命の尊さを知る等を学ぶ機会を設る。畑を活用して季節の植物や野菜の栽培を楽しみや収穫する喜びを感じられるような環境構成に努める。

◎「4. 5」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成させれている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である